

第1回ふくいの教育振興推進会議 本日の協議

1. 第3期計画の成果および現状
2. 第4期計画に向けた論点
3. 今後のスケジュール

第1回ふくいの教育振興推進会議

1. 第3期計画の成果および現状

2. 第4期計画に向けた論点

3. 今後のスケジュール

現在の「教育に関する大綱」の内容

基本理念のスローガン

『一人一人の個性が輝く、ふくい未来を担う人づくり
～ 子どもたちの「夢と希望」「ふくい愛」を育む教育の推進 ～』

目指す人間像

- ① 自らの個性を発揮し、人生を切り拓くために挑戦し続ける人
(施策の方向性: 学校段階間の接続の推進、確かな学力の育成、自ら学ぶ意欲の向上、
競技スポーツの振興、文化芸術活動の充実)
- ② 多様な人々の存在を認め、協働して新たな価値を生み出す人
(施策の方向性: 豊かな心と健やかな体の育成、国際感覚を持った人材の育成、特別支援教育の推進、
いじめ・不登校対策の充実)
- ③ ふるさとや自然を愛し、いつでもどこにいても社会や地域に貢献する人
(施策の方向性: ふるさとを愛する心の育成、地域産業を担う人材の育成、生涯学習の振興)

環境整備

施策の方向性: 教員の資質・能力を高め最大限に力を発揮できる環境づくり、
家庭や地域と一体となった教育力の向上、安全で質の高い学校施設の整備

現在の教育振興基本計画(第3期)の内容

大綱の基本理念、目指す人間像の実現に向けた施策

- 方針1 学ぶ喜びを知り、自ら進んで学ぶ意欲と力の育成
- 方針2 適性や興味関心に応じた文化芸術、スポーツ活動の促進
- 方針3 豊かな心、健やかな体の育成
- 方針4 国際的な視野に立ち、自ら考えを発信する力の育成
- 方針5 特性や心情に配慮し、誰もが安心して学べる教育環境の整備
- 方針6 ふるさとを愛する心と社会に貢献する志の育成
- 方針7 生涯にわたる学びの支援
- 方針8 新たな時代を見据えた教育環境の整備

特に重点的に推進する施策

- ① 子どもの主体性を大切にし、「個性を引き出す」教育の推進
- ② 子どもが知的好奇心や探究心を持ち、「学びを楽しむ」教育の推進
- ③ 地域に貢献しようとする心を育む「ふるさと教育」の推進
- ④ 「教職員が輝く」働き方改革の推進

計画期間

令和2年度～令和6年度

現在の教育振興基本計画の主な成果①

方針1 学ぶ喜びを知り、自ら進んで学ぶ意欲と力の育成



タブレット端末を活用した協働的な学び

福井県独自の少人数学級編制を推進し、国に先駆けて小学校全学年で35人学級を実現(R3～)、中学校では国の基準よりも大幅に少人数化を進め、全学年で32人学級編制を実現(R2～)

全国に先駆けて一人一台端末を整備(R2)、GIGAスクールサポートセンターを設置(R3)、**福井県学校教育DX推進計画**を策定(R4)など、「子どもたちが楽しく主体的に考える学びの進化」に向けた取組みを推進



少人数指導の様子

「引き出す・楽しむ教育」の推進のため、県内各小中学校の取組みおよび報告書を「ふくいわくわく学びWeb」上で情報共有するとともに、生徒による「子どもミーティング」の開催(R3・4)や、年3回の「学校づくり」と「授業づくり」をテーマとした教職員対象研修や講師による学校訪問を実施(R3～)



地域みらい留学2期生 市長表敬訪問



「授業づくり」をテーマにした研修会

地域みらい留学による全国募集を実施
オンライン合同説明会や対面型合同説明会(東京会場)にて魅力を説明
県外生徒と県内生徒との協働や切磋琢磨、地域イベントへの参加等により高校と地域が活性化
・留学者数 2校19人(R5～)



地元企業との取り組み

文部科学省**マイスター・ハイスクール**事業に県立高校2校が指定を受け(R3～5)、**地域産業を担う人材育成や先端技術の開発強化**に向け「坂井高校コンソーシアム」を創設し、**企業と連携した課題研究の強化**(R6も後継事業の指定)

地域の普通科系高校に在学して難関大学を志望する生徒を対象に「**大学進学サポートセンター**」を設置(R2～)。
県教委指導主事による教科指導、ハイレベル模試、授業動画配信を実施
・登録者数 273名(R5)



大学進学サポートセンターの開講式

方針2 適性や興味関心に応じた文化芸術、スポーツ活動の促進



越前荒土を用いて作った作品

希望する小学校、特別支援学校小学部に、県の伝統工芸である越前焼に使われている**越前荒土を配付**。図画工作科の時間に活用し、豊かな想像力、表現力を育成
・配布校数 延べ247校(R2～)

トップアスリートを目指す児童を対象にアスリート育成プログラムを提供する「**ふくいジュニアアスリートアカデミー**」を開催
・参加者数 小学5・6年生205人(R2～)



ふくいジュニアアスリートアカデミー

現在の教育振興基本計画の主な成果②

方針3 豊かな心、健やかな体の育成



県内小学生の活動の様子

学校だけでなく家庭でも楽しみながら運動するきっかけ作りのためのサイトとして「はぴりゅうスポーツ広場」を構築。県内小学生約38,000人を対象に、令和6年4月1日から運用開始

読書活動の推進のため、子どもの成長段階に応じた**推奨図書**を選定し、3種類の小冊子を作成・配布したほか、児童生徒を対象に**ジュニア司書養成講座**を開催

・ジュニア司書認定者数 182名 (R2~)



(左)推奨図書 小冊子、(右)養成講座



地域移行をした剣道部

持続可能なこどものスポーツ・文化芸術活動の機会を確保するため、中学生の休日部活動を段階的に地域に移行する「**部活動地域移行**」を推進。休日に活動する約770部活動のうち約1/4が休日活動を地域に移行



(大)男子100m走、(小)入賞した選手

令和3年度**全国高等学校総合体育大会**の総合開会式と13競技14種目を感染症対策を講じて県内で開催。高校生活動推進委員・活動委員として、県内21校から221人が大会の成功に向けて準備、運営等に参画

方針4 国際的な視野に立ち、自らの考えを発信する力の育成



検定のために動画を作成している様子

職業系高校において簡単な英語で福井のことを紹介するための動画を作成する「**福井県ふるさとツーリズム英会話検定**」を実施し、ふるさと福井に誇りを持つことができる生徒を育成

・合格者(R3~)
4級:5,662人 3級:370人 2級:66人

県と一般社団法人プレゼンテーション協会が連携協定を結び「**全国高校生プレゼン甲子園**」を企画(R3)。互いにプレゼンを競い合うことでこれからの社会に必要な資質を高めた
参加実績 全国高校生616チーム (R5第3回大会)



全国高校生プレゼン甲子園決勝大会



オンライン交流時の様子

海外の学生と社会的な話題についてディスカッション等を行う「**オンライングローバルキャンプ**」を開催。交流を通して異文化に対する視野を広げるとともに、語学力を養成

・参加者数 県内16校から71人(R3~)

外部検定試験の受験支援として、県内各公立中学校3年生を対象に**GTECの受験料を全額支援**し、結果分析資料等をもとに、生徒の学習改善と教師の授業改善を図るため、県内5会場にて「**中学校授業づくり研修**」と動画研修を実施
・GTEC受験者数 25,464人(R2~)



中学校授業づくり研修会

現在の教育振興基本計画の主な成果③

方針5 特性や心情に配慮し、誰もが安心して学べる教育環境の整備



中高生に配付している周知カード

いじめや不登校の防止のため、県内在住の中学・高校生向けに、**ソーシャルネットワークサービス(SNS)を通じた相談窓口**を夏季休業明け前後および土日祝日の17時から21時に開設

方針6 ふるさとを愛する心と社会に貢献する志の育成



福井ふるさと教育フェスタにおけるふるさと学習の活動成果の発表

ふるさと福井への誇りと愛着の育成を図るため、**小中学校でのふるさと教育を充実**

- ・福井ふるさと教育フェスタ(R1～)
- ・福井県小学生「地域の宝」年表コンテスト(R2)
- ・ふるさと福井の魅力プレゼンテーション大会(R2～)
- ・ふるさと福井CMコンテスト(R3～)
- ・ふるさととの学び特別賞(R3～)

小中学校で不登校傾向にある児童生徒に対し、校内に教室とは別の居場所づくりと、自己実現及び児童生徒が抱える課題や多様なニーズへの支援を目的として「**校内サポートルーム**」を設置。常駐支援員を配置し児童生徒が安心して学校生活を送れるよう支援

- ・配置校 小学校25校、中学校25校(R6)



校内サポートルーム

「**全国産業教育フェア福井大会**」を開催するとともに、その中で「**全国高校生ビジネスアイデアコンテスト**」を実施

- ・フェア参加者数 延べ25,000人超
- ・ライブ配信視聴数 15,000回超え
- ・コンテスト参加実績 全国89チーム



全国高校生ビジネスアイデアコンテスト



遠隔ロボット「クビー」の活用による交流学习

遠隔ロボットやVRゴーグルを活用して、病気療養中や発達障がい等のある児童生徒の学習環境改善等を推進

- ・遠隔ロボット(R4～5) 療養先との接続など6校で活用
- ・VRゴーグル(R4～5) 23校で81回活用



「ふくいの産業」の様子

県独自の共通科目「**ふくいの産業**」として、46の企業や団体がオンライン講座を実施(R3～5)。過去の講座はYoutubeにて視聴可能(視聴にはURLが必要)

外国人児童生徒等に対する日本語指導、受け入れ体制の整備などに対する共通理解や情報交流のため、**外国人児童生徒等教育連絡協議会**を年3回実施。学校の要請に応じて、**日本語指導アドバイザー**による相談支援のため、7市町の小中学校を訪問(R4～)



外国人児童生徒等教育連絡協議会

こども歴史文化館で紹介中のふくいの先人(歴史上の人物)や展示について検索できるシステム「**これきサーチ**」公開(R5.3)。小中学生が校外学習の来館時に調べ学習を行う際等に利用

- ・校外学習での利用者数 672人(R5)



「これきサーチ」で調べる様子

現在の教育振興基本計画の主な成果④

方針7 生涯にわたる学びの支援



救命救急法の演習

県立施設で活躍できる学生を中心としたボランティア・リーダーの育成を目的に「教育ボランティア養成事業」を開催し、次世代のリーダーとして活躍できる人材を育成

- ・登録者数 延べ200名(高校生・大学生等)

地域清掃や環境学習、世代間交流事業など、各社会教育関係団体(海洋少年団、壮年団、子ども会、ガールスカウト、ボーイスカウト、「小さな親切」運動)が行うSDGsの目標に向けた活動を支援(R3~)

- ・活動件数 57件
- ・参加者数 約3600人



自然の豊かさについて学ぶ様子



親はぴトークの様子

保護者同士が交流しながら子育ての悩みなどを気軽に話し合うことで、不安や孤立感の解消や支え合う仲間づくりのきっかけとして、親のまなびあいプログラム「親はぴトーク」の開催を推進

- ・「親はぴトーク」を用いた学習会11回
参加者:58名(R4~)
- ・企業向けの出前講座2回
参加者:22名(R5)

方針8 新たな時代を見据えた教育環境の整備

先生の色 いろいろ



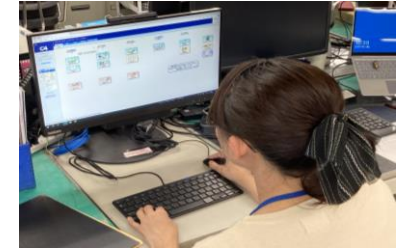
教職の魅力を伝える動画

優れた教職員の確保に向けた教員採用選考試験の見直しを推進

- ・第一次選考免除制度の拡充(県外の現職教員、講師等5年以上の経験者等を対象)
- ・大学3年生等を対象としたチャレンジ第1次選考の導入
- ・東京会場(※第1次選考)の設置 等

校務支援システムの欠席連絡、掲示板機能等の活用、県立学校や中学校でデジタル採点システムの導入により、校務のDX化を推進

- ・県の校務支援システム導入(13市町)
- ・デジタル採点システム導入(全県立高校、中学校26校)



校務支援システムを活用



WEB出願システムの入力画面

県立高等学校等の入試におけるWEB出願システムの導入により、電子出願によるペーパーレス化するとともに、受験料振込みによる手続きの簡素化

- ・利用者数 5100人(R6年度入試)

大規模改修工事の実施により、学校施設の長寿命化を進めるとともに、断熱補強や省エネ設備、普通教室のある教棟の生徒用トイレをすべて洋式化するなど、時代に即した学習環境を備える学校にするためのリノベーションを推進

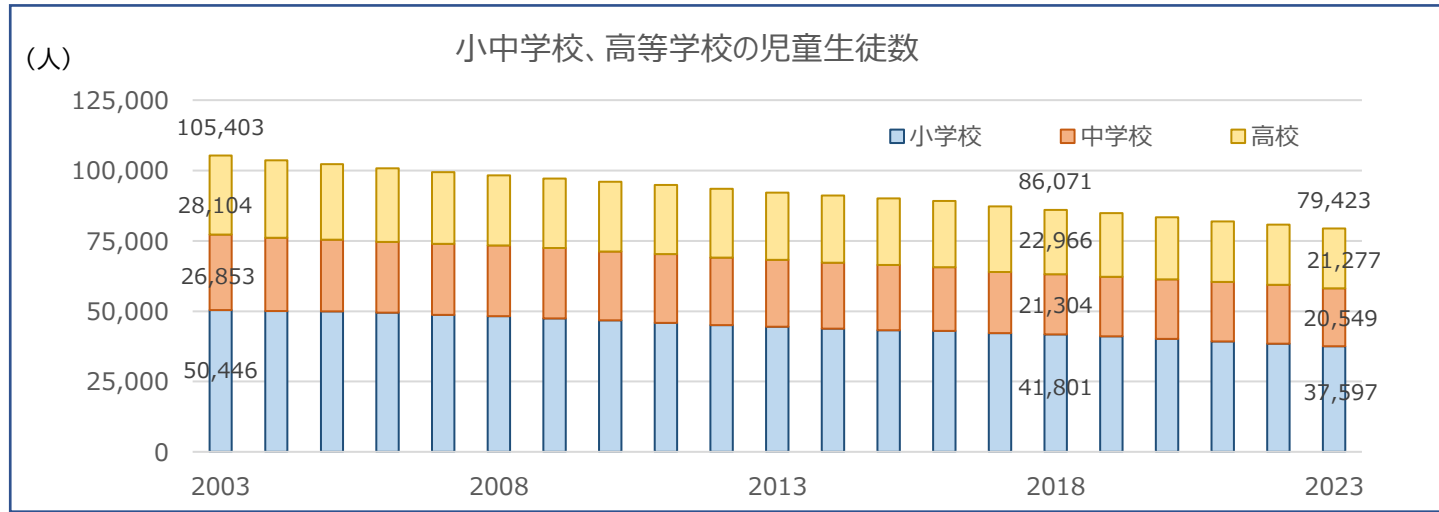
- ・リノベーション工事実績 10校16棟(R2~)



リノベーション後の教室

福井県の教育の現状①

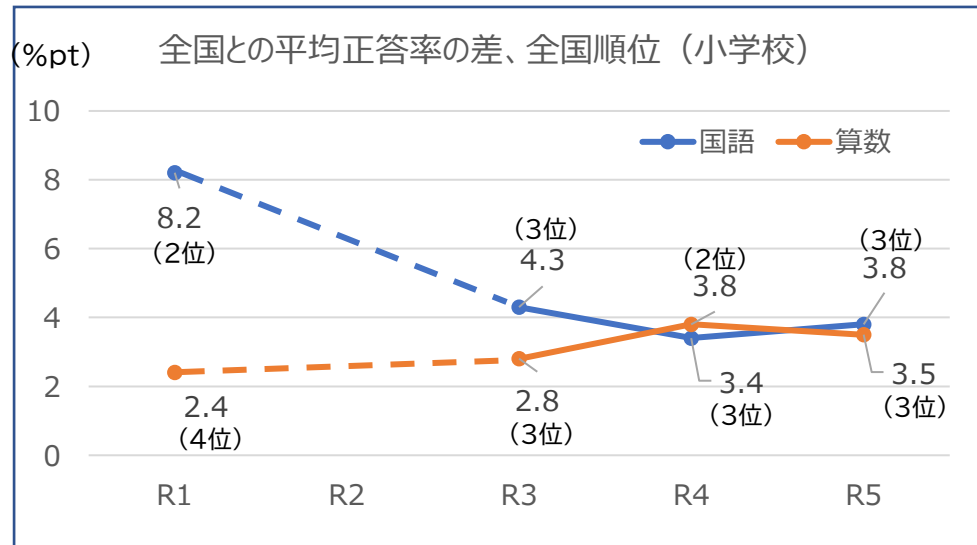
■小中学校、高等学校の児童生徒数の推移 20年前から約25%、5年前から約7.7%の減



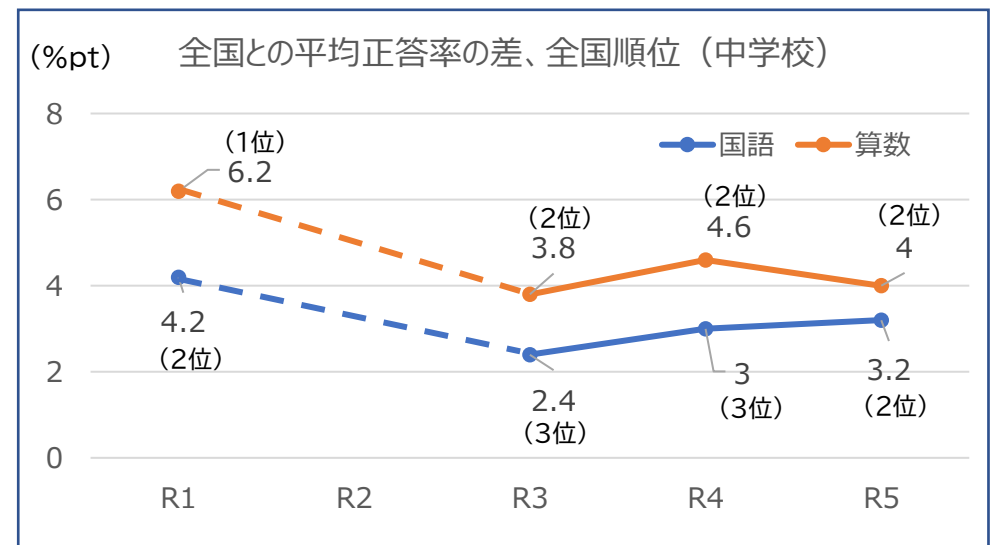
【出展】「学校基本調査」(文部科学省)

■学力は高水準を維持しているが、全国平均との差は縮小傾向

※R2は調査未実施



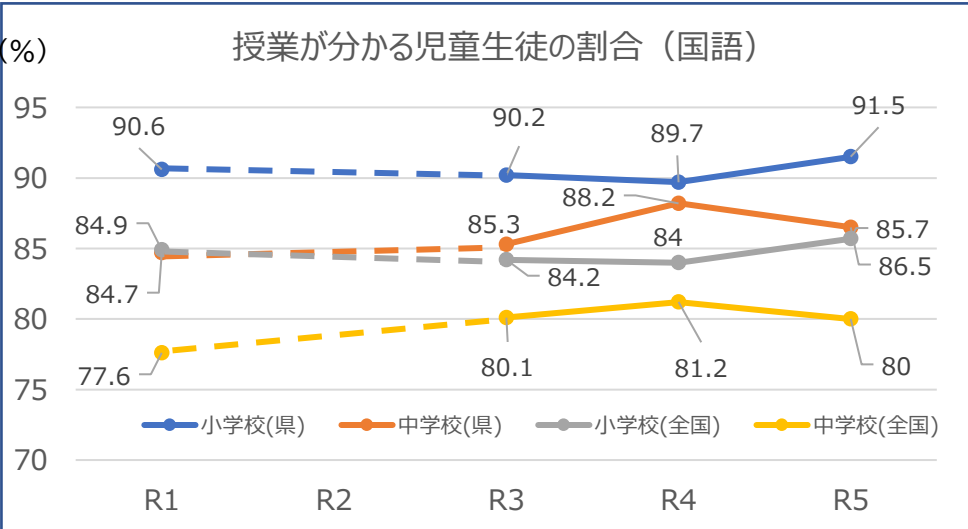
【出展】「全国学力・学習状況調査」(文部科学省)



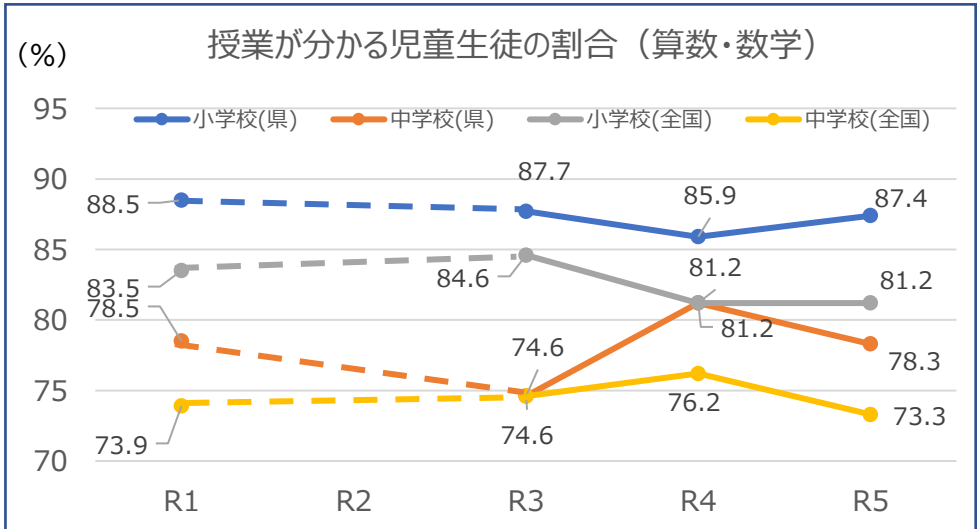
【出展】「全国学力・学習状況調査」(文部科学省)

福井県の教育の現状②

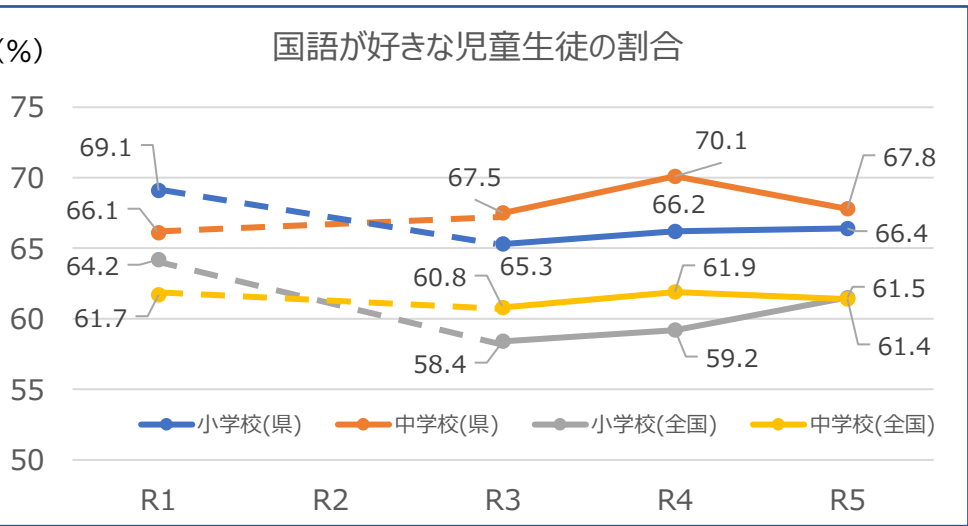
- 授業が分かる児童生徒の割合、授業が好きな児童生徒の割合は国語・数学いずれも全国平均より高水準
- 授業が分かる児童生徒の割合は計画開始前後ではほぼ同水準だが、授業が好きな児童生徒の割合は小学校で県・全国ともに低下傾向



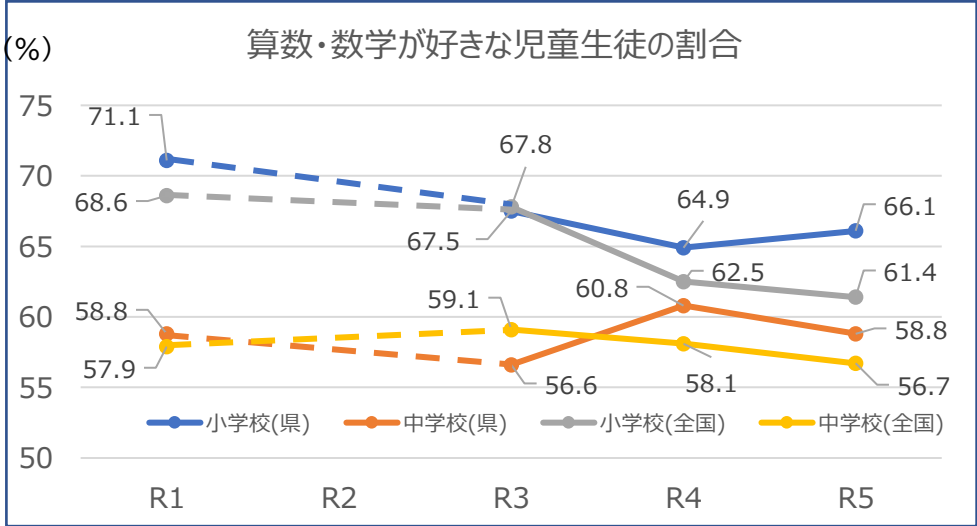
【出展】「全国学力・学習状況調査」(文部科学省)



【出展】「全国学力・学習状況調査」(文部科学省)



【出展】「全国学力・学習状況調査」(文部科学省)

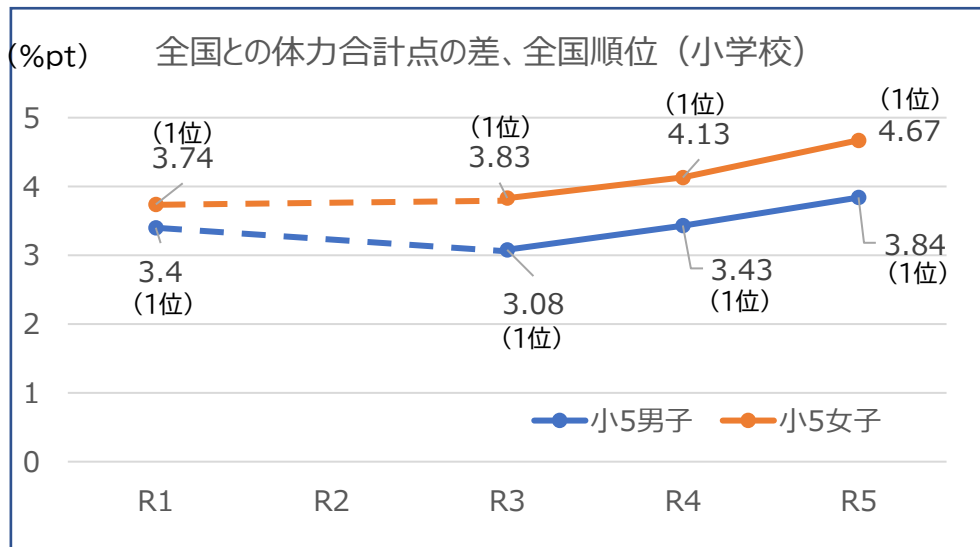


【出展】「全国学力・学習状況調査」(文部科学省)

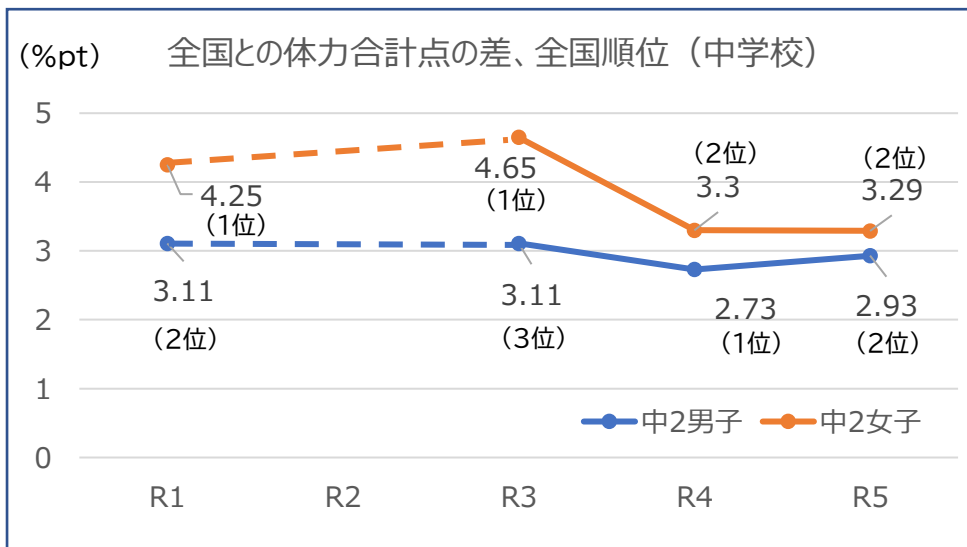
福井県の教育の現状③

■体力は高水準を維持

※R2は調査未実施

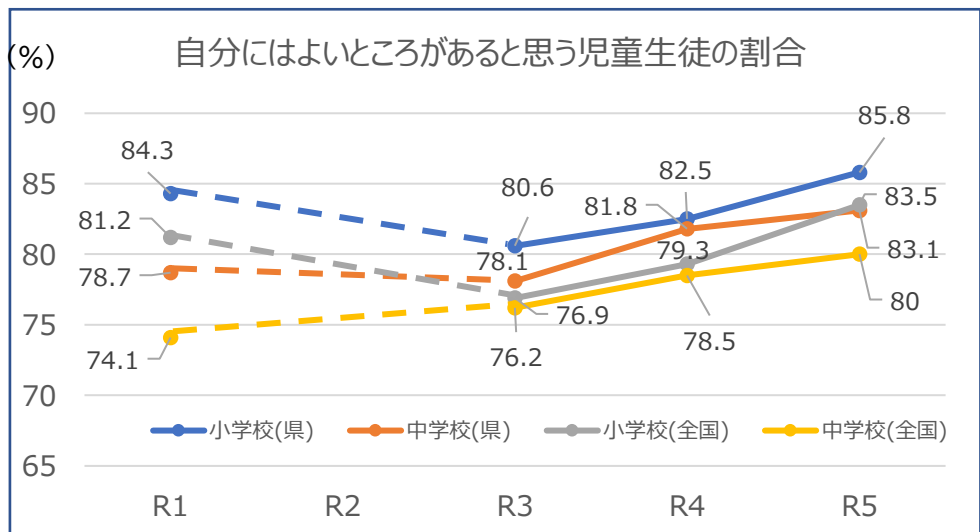


【出展】「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」(文部科学省)

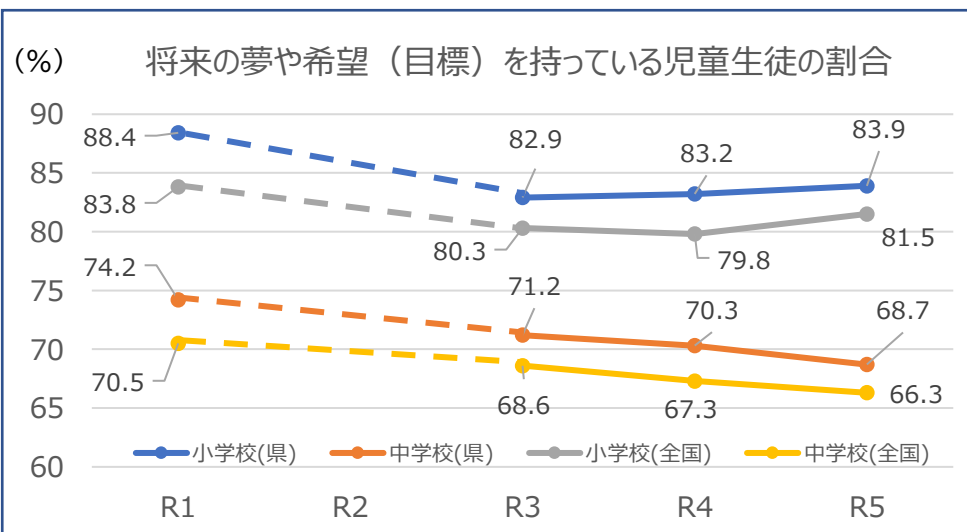


【出展】「全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果」(文部科学省)

■自己肯定感は上昇傾向である一方、将来の夢や目標が児童生徒の割合が小中学校で低下傾向



【出展】「全国学力・学習状況調査」(文部科学省)

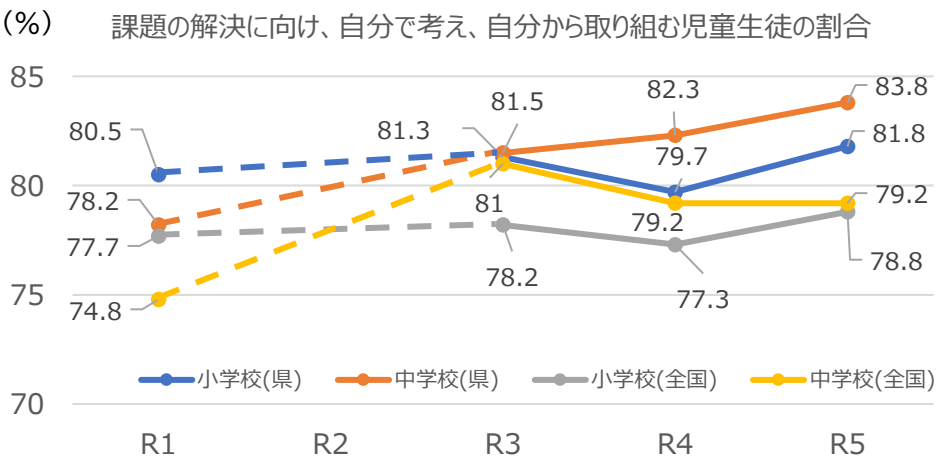


【出展】「全国学力・学習状況調査」(文部科学省)

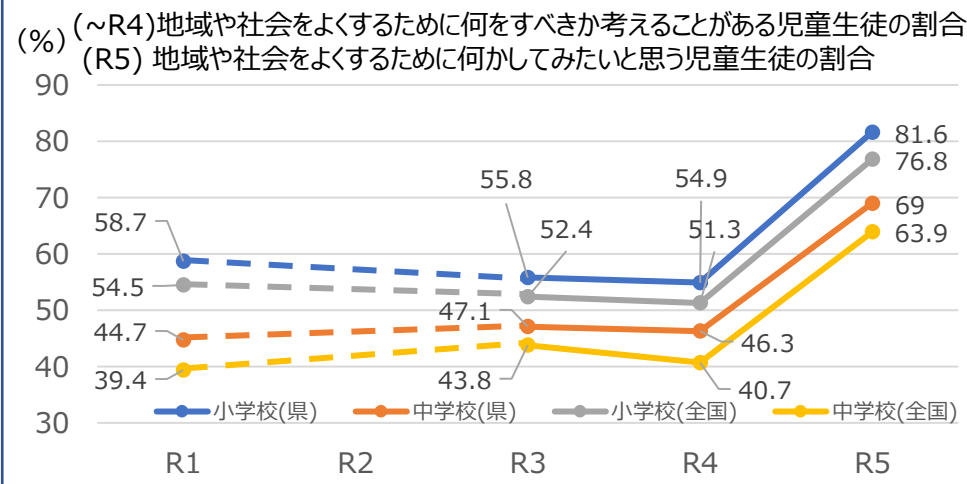
福井県の教育の現状④

■中学生では、自ら課題解決に取り組む生徒の割合が上昇傾向

※R2は調査未実施

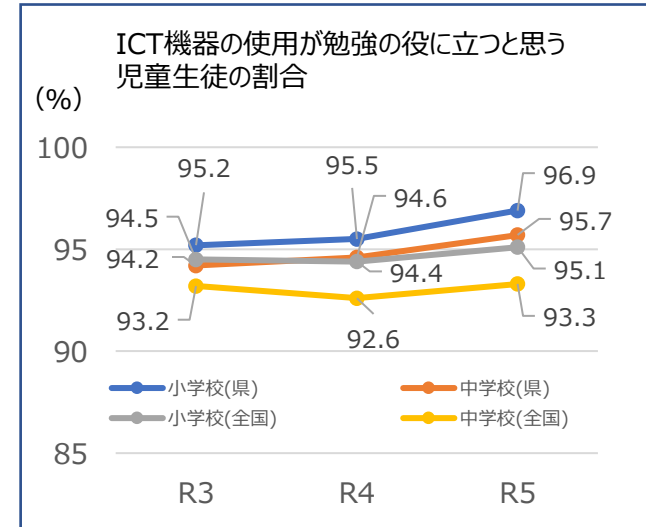


【出展】「全国学力・学習状況調査」(文部科学省)

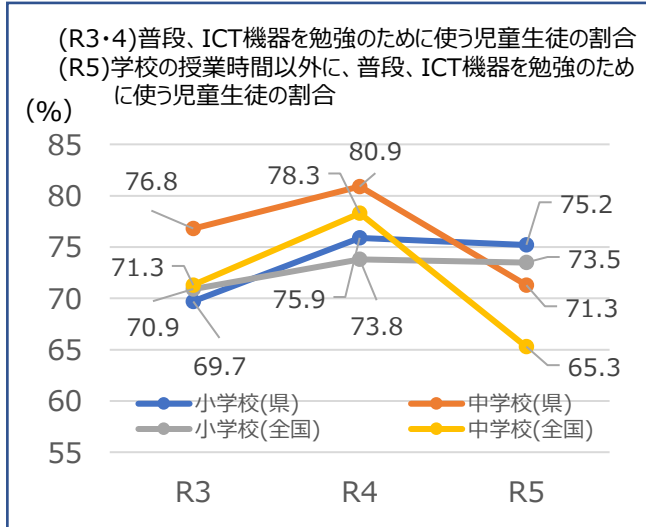


【出展】「全国学力・学習状況調査」(文部科学省)

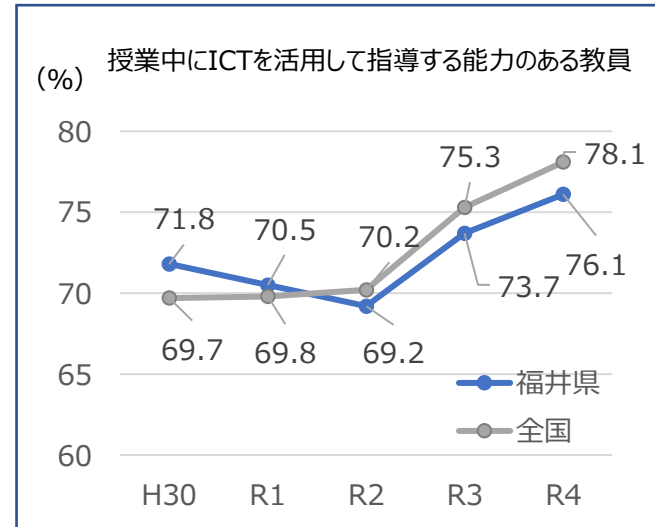
■児童生徒の学習におけるICT活用の浸透、教員のICT活用力の伸長



【出展】「全国学力・学習状況調査」(文部科学省)



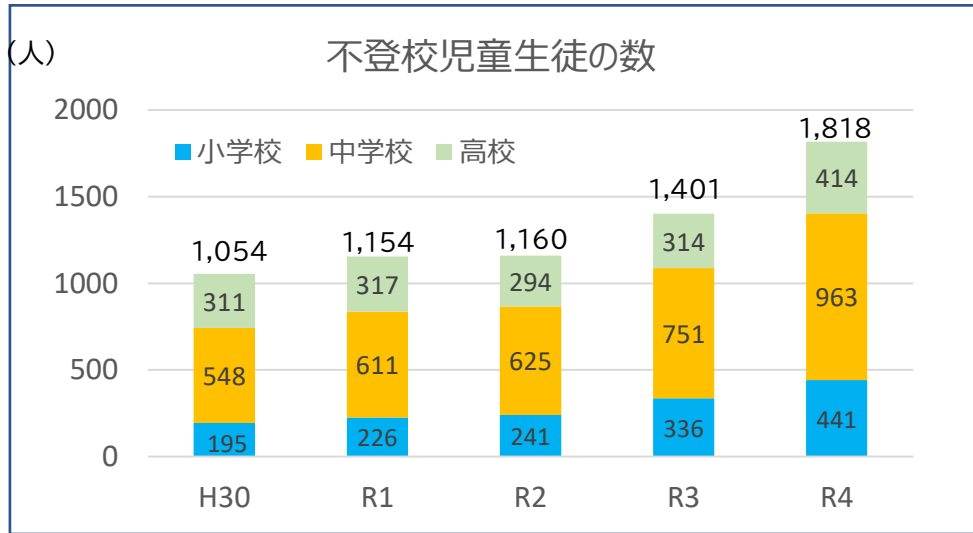
【出展】「全国学力・学習状況調査」(文部科学省)



【出展】「学校における教育の情報化の実態等に関する調査」(文部科学省)

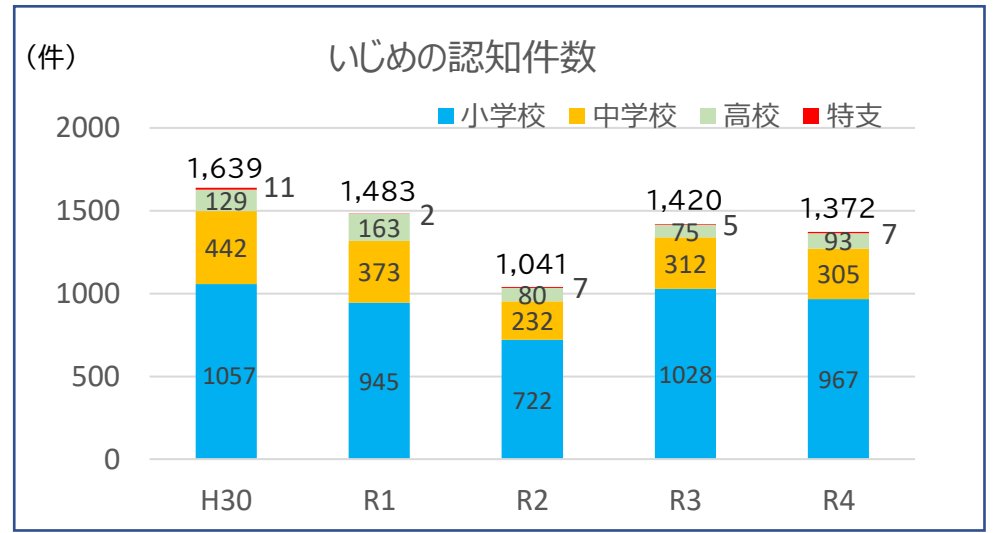
福井県の教育の現状⑤

■不登校児童生徒数が増加(出現率は全国最低)



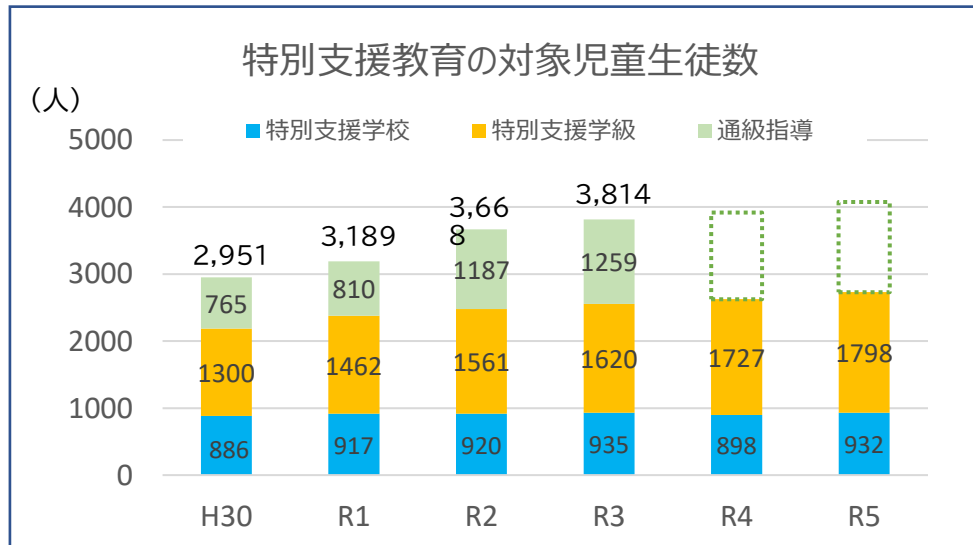
【出展】「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」(文部科学省)

■いじめ認知件数は減少



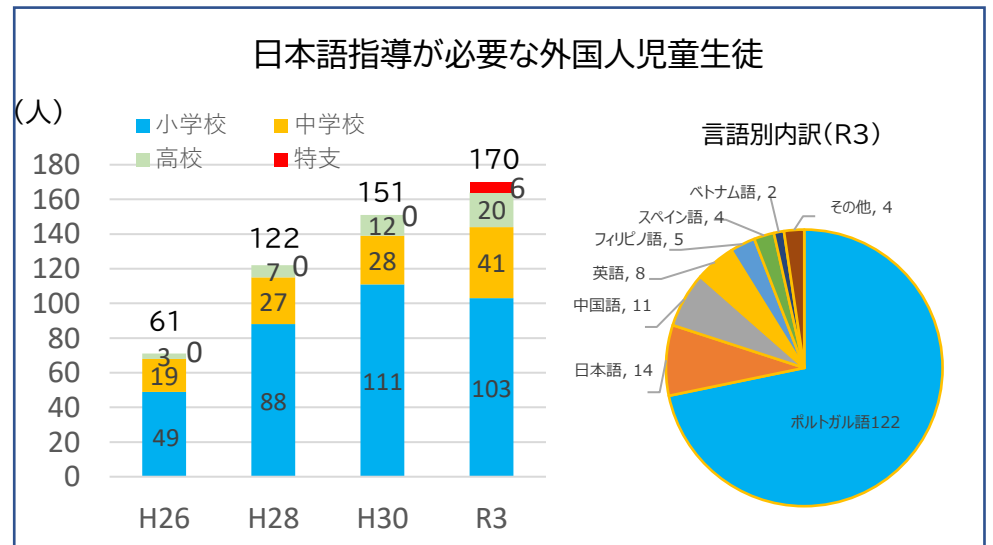
【出展】「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」(文部科学省)

■特別支援教育の対象児童生徒数が増加



※通級指導を受けている児童生徒数はR3が最新 【出展】「学校基本調査」(文部科学省)

■外国人児童生徒数が増加



【出展】「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査」(文部科学省)

福井県の卒業生の進路状況①(中学校)

■進学 進学率が上昇、県立(全日制)の割合が低下、私立・県外の割合が上昇

年	県内												県外		合計	
	県立(全)		県立(定)		県立(通)		私立		特支		高専		人数	割合	人数	割合
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合				
H26	5,431	66.6	199	2.4	18	0.2	2,018	24.7	80	1.0	182	2.2	123	1.5	8,051	98.7
H27	5,330	67.4	162	2.0	20	0.3	1,894	24.0	83	1.0	183	2.3	152	1.9	7,824	99.0
H28	5,218	67.4	169	2.2	18	0.2	1,874	24.2	68	0.9	191	2.5	138	1.8	7,676	99.2
H29	5,205	67.1	190	2.5	12	0.2	1,939	25.0	85	1.1	186	2.4	140	1.8	7,757	99.2
H30	5,008	66.5	157	2.1	23	0.3	1,935	25.7	78	1.0	186	2.5	147	2.0	7,534	99.3
H31	4,804	66.2	164	2.3	28	0.4	1,824	25.1	88	1.2	187	2.6	161	2.2	7,256	99.3
R02	4,461	62.1	148	2.1	21	0.3	2,113	29.4	77	1.1	185	2.6	176	2.5	7,181	99.4
R03	4,521	63.8	151	2.1	20	0.3	1,960	27.6	82	1.2	184	2.6	171	2.4	7,089	99.6
R04	4,542	63.4	187	2.6	30	0.4	1,946	27.2	68	0.9	180	2.5	206	2.9	7,159	99.4
R05	4,610	64.6	169	2.4	39	0.5	1,845	25.9	85	1.2	177	2.5	208	2.9	7,133	99.3

【出展】「学校基本調査」(文部科学省)

■就職 就職率が低下

年	H26		H27		H28		H29		H30		H31		R02		R03		R04		R05		H26→R05	
	人数	就職率	人数	就職率	人数	就職率	人数	就職率	人数	就職率	人数	就職率	人数	就職率	人数	就職率	人数	就職率	人数	就職率	人数	割合
福井県	31	0.4	20	0.3	8	0.1	12	0.2	16	0.2	4	0.1	8	0.1	3	0.0	4	0.1	8	0.1	▲23	▲0.3
全国順位	20位		33位		45位		41位		19位		46位		41位		46位		47位		33位		13位DOWN	
全国平均	4,341	0.4	3,931	0.4	3,235	0.3	3,202	0.3	2,272	0.2	2,169	0.2	2,032	0.2	1,721	0.2	1,589	0.1	1,710	0.2	▲2,631	▲0.2

【出展】「学校基本調査」(文部科学省)

福井県の卒業生の進路状況②(高等学校)

【出展】「学校基本調査」(文部科学省)

■進学 大学進学率が上昇、短大進学率が低下、県外進学率が上昇

(1)大学、短大等への進学者数・進学率

(人・%)

年	H26		H27		H28		H29		H30		H31		R02		R03		R04		R05		H26→R05		
	人数	進学率	人数	進学率	人数	進学率	人数	進学率	人数	進学率	人数	進学率	人数	進学率	人数	進学率	人数	進学率	人数	進学率	人数	割合	
福井県	男	1,984	51.6	2,048	53.7	1,939	52.5	2,044	53.8	1,986	53.3	1,873	52.7	2,060	56.2	2,108	57.8	1,988	59.3	2,081	61.4	+97	+9.8
	女	2,014	55.3	2,099	56.9	2,180	59.6	2,183	58.0	2,197	60.3	2,139	59.2	2,073	57.6	2,112	61.4	2,025	60.4	2,098	64.0	+84	+8.7
	計	3,998	53.4	4,147	55.3	4,119	56.1	4,227	55.9	4,183	56.8	4,012	56.0	4,133	56.9	4,220	59.5	4,013	59.9	4,179	62.7	+181	+9.3
	全国順位	15位		14位		12位		13位		11位		10位		11位		10位		12位		10位		5位UP	
全国平均	563,419	53.8	579,944	54.5	572,504	54.9	585,339	54.7	578,029	54.7	574,695	54.7	578,341	55.8	580,550	57.4	588,919	59.5	584,465	60.8	+21,046	+7.0	

(2)大学、短大別進学状況(進学者数・進学者に占める割合)

(人・%)

年	H26		H27		H28		H29		H30		H31		R02		R03		R04		R05		H26→R05	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
大学	3,310	82.8	3,494	84.3	3,469	84.2	3,758	88.9	3,736	89.3	3,600	89.7	3,737	90.4	3,821	90.5	3,670	91.5	3,843	92.0	+533	+9.2
短大	641	16.0	620	14.9	609	14.8	422	10.0	413	9.9	368	9.2	364	8.8	352	8.3	303	7.6	303	7.3	▲338	▲8.7
その他	47	1.2	33	0.8	41	1.0	47	1.1	34	0.8	44	1.1	32	0.8	47	1.1	40	1.0	33	0.8	▲14	▲0.4

(3)県内・県外への進学者数・割合

(人・%)

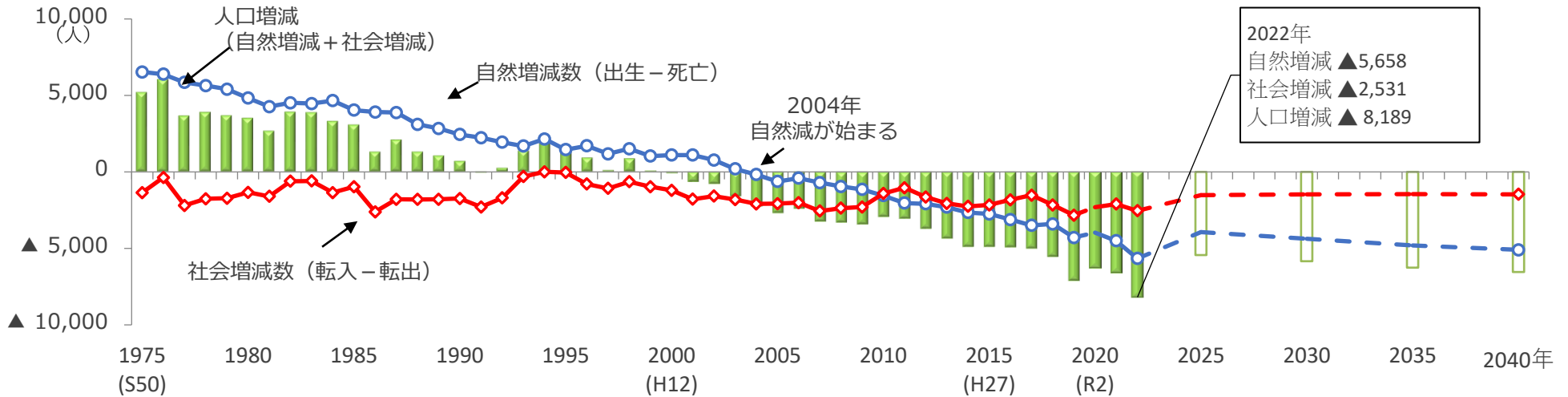
年	H26		H27		H28		H29		H30		H31		R02		R03		R04		R05		H26→R05	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
県内	1,513	37.8	1,526	36.8	1,511	36.7	1,550	36.7	1,557	37.2	1,405	35.0	1,432	34.6	1,497	35.5	1,361	33.9	1,469	35.2	▲44	▲2.6
県外	2,485	62.2	2,621	63.2	2,608	63.3	2,677	63.3	2,626	62.8	2,607	65.0	2,701	65.4	2,723	64.5	2,652	66.1	2,710	64.8	+25	+2.6

■就職 就職率が低下

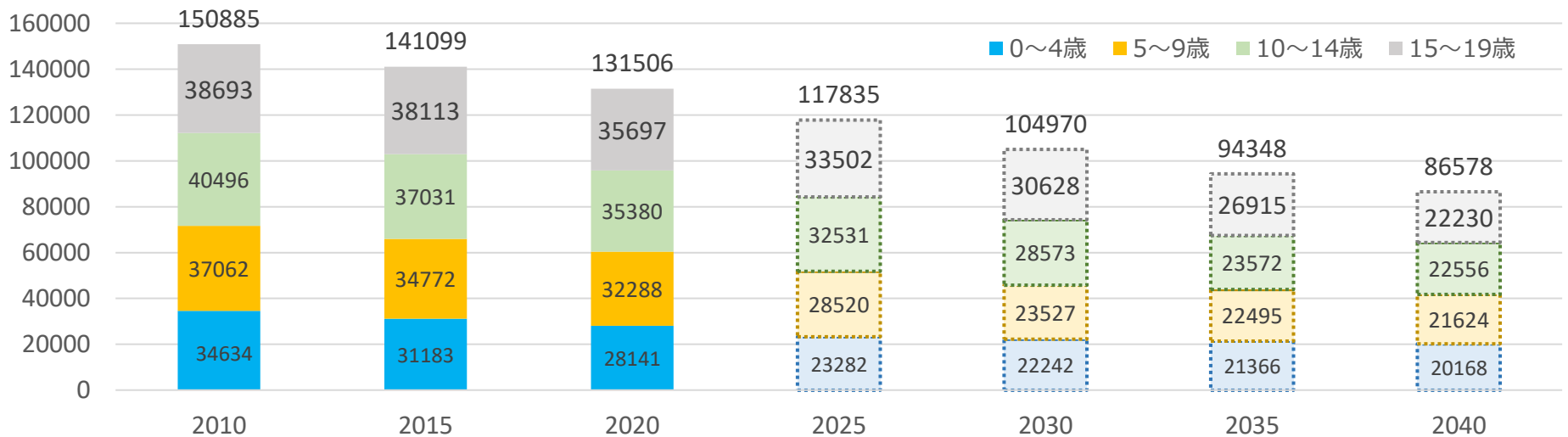
年	H26		H27		H28		H29		H30		H31		R02		R03		R04		R05		H26→R05		
	人数	就職率	人数	就職率	人数	就職率	人数	就職率	人数	就職率	人数	就職率	人数	就職率	人数	就職率	人数	就職率	人数	就職率	人数	割合	
福井県	県内	1,595	21.3	1,576	21.0	1,488	20.3	1,512	20.0	1,434	19.5	1,469	20.5	1,477	20.3	1,317	18.6	1,155	17.2	1,053	15.8	▲542	▲5.5
	県外	201	2.7	211	2.8	198	2.7	227	3.0	168	2.3	161	2.2	178	2.5	147	2.1	129	1.9	119	1.8	▲82	▲0.9
	計	1,796	24.0	1,787	23.8	1,686	22.9	1,739	23.0	1,602	21.8	1,630	22.7	1,655	22.8	1,464	20.7	1,284	19.1	1,172	17.6	▲624	▲6.4
	全国順位	16位		16位		19位		21位		26位		23位		19位		19位		23位		27位		11位DOWN	
全国平均	182,678	17.5	188,908	17.8	185,104	17.8	190,311	17.8	191,495	17.6	184,038	17.7	180,560	17.4	159,126	15.7	145,887	14.7	136,509	14.2	▲46,169	▲3.3	

福井県の人口増減等の推移①

■人口増減の推移 2000年以降、自然増加数が社会減少数を下回って人口減少。2004年以降は自然減



■子ども数の推移 令和2年度からこの5年間で約10%、2040年までの20年間で約35%の減少見込み



福井県の人口増減等の推移②

■若者の社会増減の推移 20歳代を中心に社会減。減少数はほぼ横ばい

〔現況〕	R1	R2	R3	R4	R5
20歳代の社会増減	▲1,852人	▲1,712人	▲1,492人	▲1,789人	▲1,757人
30歳代の社会増減	▲222人	▲82人	▲161人	▲135人	▲243人

【出典】住民基本台帳人口移動報告(総務省)

■県外大学新卒者等のUIターン者の推移 Uターン者数は減少、Iターン者数は増加の傾向

年	H30	R1	R2	R3	R4	H30→R4
Uターン率 (%)	32.1	26.5	27.2	27.4	28.2	▲3.9
Uターン者数 (名)	830	683	727	715	727	▲103
Iターン者数 (名)	683	704	978	1035	840	+157

【出典】大学新卒者等の採用状況調査(県定住交流課)

第1回ふくいの教育振興推進会議

1. 第3期計画の成果および現状

2. 第4期計画に向けた論点

3. 今後のスケジュール

第4期計画に向けた論点

1. ①子どもの主体的なキャリアデザイン力の育成
②福井県の未来を創造する人材の育成
2. 総合的な学習(探究)の時間と各教科学習の
つながりの強化
3. 誰一人取り残されず、全ての子どもの可能性を
引き出す学びと環境づくり
4. 教員の働き方改革(働きやすさ×働きがい)
5. 家庭・地域の教育力の育成

1. ①子どもの主体的なキャリアデザイン力の育成

- ・将来の予測が困難な先を見通しづらい時代
- ・物質的な豊かさがある程度満たされ、精神的な豊かさが重視される時代
- ・職業キャリアやライフスタイルの多様化

⇒生き方を自ら選択していくことが重要な時代

一方で教員の肌感覚として、明確な目的意識のないまま、進学先を決めてしまう子どもが多い

一人一人のウェルビーイングの実現のため、また、個性を発揮できる確かなキャリアを形成できるよう、自ら将来設計して行動するキャリアデザイン力の育成を推進していくべきと考えるが、どのような方策が考えられるか。

1. ②福井県の未来を創造する人材の育成

- ・人口減少は、社会減は横ばいに留まっているが、自然減の増加で加速
- ・中学校・高等学校ともに、進学割合と県外進学割合が上昇
- ・県外大学新卒者等のUターン者数が減少（Iターンは増加）

⇒子どもたちのあらゆる可能性を応援しながらも、本県の将来を支える人材をいかに育成していくか

県では、地元愛を育むふるさと教育や、職業系高校を中心として地域企業と協働した職業教育等に取り組んでいるが、今後、①のキャリアデザイン力を育む中で、地域の将来像を意識しながら、自分自身の将来を描いていくために、どのような方策が考えられるか。

2. 総合的な学習(探究)の時間と各教科学習のつながりの強化

・本県では、総合的な探究の時間を重要な教科と位置付けた上で、各教育で学ぶ能力や資質を関連付けながら、探究的な視点で横断的・総合的な学習を行い、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成

⇒今後、習得・活用・探究という学びの過程を一層重視しながら、各教科が目指す資質・能力の確実な育成と、それを横断する総合的な学習(探究)の時間の更なる充実が重要

今後、教科等横断的な視点を持ち、教育目標の達成に向けたカリキュラムマネジメントの推進など、総合的な学習(探究)の時間と各教科の成果がさらなる相乗効果を生み出していくことが重要であると考えるが、そのためにどのような方策が考えられるか。

3. 誰一人取り残されず、全ての子どもの可能性を引き出す学びと環境づくり

- ・コロナ禍を契機に不登校が増加
- ・合理的配慮が必要な子どもや外国人児童生徒の増加
- ・SC・SSWの配置や相談体制の充実、教室以外での居場所づくり、特別支援教育や通級指導の推進、コミュニケーションサポーターの配置等により、子ども一人一人に合わせた学びとサポートを提供
- ・その他、へき地複式の学校における授業づくりの推進、貧困対策を含む子育て支援として私立高校授業料の無償化等を実施

子どもの特性が多様化する中、誰一人取り残されることなく、一人一人の長所や強みを伸ばしていくことができる学びの場を構築していくために、どのような方策が考えられるか。

4. 教職員の働き方改革(働きやすさ×働きがい)

- ・勤務時間の徹底管理を推進し、時間外勤務月80時間以上の教員の割合は12%(H30)→0.4%(R5)に大きく減少
- ・校務支援システムの導入や、業務改善事例の横展開、休日の運動部活動の地域移行等を推進
- ・一方、学習指導要領の改訂に伴う探究学習やICT活用への対応や、合理的配慮への対応等により教職員は引き続き多忙な状況

子ども一人一人に向き合った教育ができるよう、働きやすさと働きがいを両立させ、教員が自信と誇りを持って仕事ができる環境にしていくために、どのような方策が考えられるか。

5. 家庭・地域の教育力の育成

- ・全国と同様に世帯の核家族化、地域の繋がりが希薄化
- ・本県ではほぼ全ての小中学校において、「福井型コミュニティ・スクール」を形成し、家庭・地域・学校が連携して、地域全体の教育・子育てや学校運営の方針を策定・実行
- ・保護者の教育力向上のため、家庭教育に関するリーフレットの配布、保護者同士が学び合う、親のまなびあいプログラム「親はぴトーク」の作成等を実施

保護者の家庭教育への関わりや、地域住民や企業・団体等の子どもの学びへの参画など、保護者・地域住民の一人一人に教育の担い手としての意識を持っていただき、主体的な行動を促していくために、どのような方策が考えられるか。

第1回ふくい教育振興推進会議

1. 第3期計画の成果および現状
2. 第4期計画に向けた論点
3. 今後のスケジュール

今後のスケジュール

	6月	7～9月		10～12月		1～3月		
有識者 会議	第1回			第2回		第3回		
			総合教育会議 大綱見直し について協議				パブリック コメント	計画 決定